

令和四年度 入学試験問題

国 語

理・医・農

二月二十六日(土)一四時一〇分—一四時五五分

注意事項

- 1、試験開始の合図まで、この冊子を開いてはいけない。
- 2、冊子のページ数は四ページ(問題紙三ページ、答案紙二ページ)である。
- 3、落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつたら、ただちに申し出よ。
- 4、解答にかかる前に答案紙をていねいに切り離し、所定の二箇所を受験番号を記入せよ。
- 5、解答は答案紙の所定の欄に記入せよ。所定の欄以外に書いた解答は無効である。
- 6、試験終了後、退室の許可があるまでは、退室してはいけない。
- 7、答案紙は持ち帰ってはいけない。問題冊子は持ち帰ってもよい。

一 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

「居場所」はおそらく二〇〇〇年頃から頻繁に耳にするようになった言葉だろう。精神科医療のなかでも居場所型デイケアのように居場所的機能を持つ場が作られてきた。もちろん居場所そのものはおそらく人類の誕生以来ありつづけたものであるが(言い換えると人間にとって必要欠くべからざる環境なのだろうが)、二一世紀になって居場所がクローズアップされるようになった<sup>①</sup>背景には、二つの文脈がある。

一つは困難の文脈だ。高度経済成長から新自由主義の進展にもなつて地域の共同体が壊れていき、競争社会が浸透してさまざまな排除が正当化されたため、**A** 弱い立場に置かれた人の「場」が失われ、「居場所」をあえて人工的に作り出す必要が生じたのだろう。伝統的な居場所がいつの間にか失われていたということが(バブルの崩壊と一九九八年の通貨危機以降の経済の破綻にともない)ロテ<sup>a</sup>イした。社会全体がゆとりを失い、ゆとりを確保するための居場所を新たに作る必要が生じている。その後が続いたインターネットとSNSの普及はとくに若者にとってリアルな場所の不在を際立たせることになった(居場所という言葉が流行している原因を学生に問うと、SNSの普及への対抗運動だとする回答が多くある)。(経済的な文脈と、医療と福祉の地域化・脱施設化の流れのなかで)二〇〇〇年代初頭に、日本の福祉制度は介護保険の制定や児童福祉法の改正など大きな岐路<sup>b</sup>を迎えた。こうしてリースクールや放課後等デイサービス、精神科デイケア、高齢者向けのデイサービスといったさまざまな形の居場所事業が制度化されていった。

もう一つの文脈は自発的なものである。浦河べてるの家や、私が関わっている大阪市西成区の子どもの里は、一九七〇年代後半に精神障害者や子どものニーズに応える形で自然発生的に生まれた居場所である。カソ<sup>c</sup>地域の精神障害者が集う場所や、大都市の貧困地区で子どもたちが集う場所が、この時期に自然と生まれたのだった(さらにそのセンク<sup>d</sup>シャとして一九六〇年代後半からの脳性まひ当事者による自立生活運動がある)。高度経済成長期には、身体障害者・精神障害者・虐待から保護された子どもが大規模施設に収容された(当時はそれが「福祉」と考えられていた)。障害を持つ人が再び地域で暮らすための脱施設化の運動と、地域での居場所の創設とは連動している。

二〇〇〇年代に当事者研究やオーブンダイアログといった仕方で具体化していった対話の文化もまた、困難を抱えた人たちが(施設を出て)地域で暮らしていく動きのなかで生まれたものだといってもいいだろう。つまり新自由主義の進行に対するカウンタームーブメントとして居場所と対話の文化が密にかつ自発的な仕方で日本そして世界の各地に拡がっていったのだ。居場所とは人が自由に「来る」ことができ、「居る」ことができ、「去る」こともできる場所である。

さらに言うと、「何もせずに」居ることができるところであり、一人で過ごしていたとしても孤独ではない場所である。なぜ一人で居ても孤独ではないかという点、誰かがそこでその人を気にかけて見守り、放っておいてくれるという感覚があるからである。逆説的だが、居場所とは人と出会う場所であり、かつ一人にもなれる場所のことだ。

居場所がもつこのとらえにくい大事な機能については東畑開人が鮮やかに描き出した。東畑はとりわけ居場所型デイケアがもつ「何もしない」という特徴の意味を考察した。

だけど本当にふしぎなのは、何かふしぎなことをしている人ではなく、何もしていない人たちだ。多くの人が、デイケアア室でただ座っているだけなのだ。話をするでもなく、何かを読むでもない。ときどきお茶を口に含むことはあったけど、基本彼らは何もせずにただただ座っていた。<sup>②</sup>こんな風景見たことない。僕はそれまで、誰も彼もがセカセカと何かをしている世界にいたからだ。(東畑「居るのはつらいよ」)

実は私自身も数年前に精神科デイケアでのフィールドワークを試みかけたことがあったのだが、今思うとこの「何もしない」ことに耐えられなくて調査を断念した。居場所では行為が必要とされない。あるいは**B** 状況を変化させようとすることは禁じられているのだ。以下では、来ても来なくてもよく、何もしなくてもよいというあいまいさの持つ意味について考えていく。

無為に加えて居場所にはもう一つの特徴がある。それは自由な遊びが生み出される場所であるということだ。たとえば居場所型デイケアのプログラムも目的を持たない遊びとも言える。そしてこどもの里のような子どもの居場所では、文字通り子どもは自由に遊ぶ。私は子どもの居場所を調査しているので、思い思いに自由に遊ぶ場所としての居場所の意味を強く感じている。精神科デイケアの場合は、自由に遊ぶことが難しい人たちのためにプログラムをあえて作って遊びを生み出そうとしていると感じるが、もともとの居場所がもつ無為は、自由で即興的な遊びにつながっているだろう。

遊びは、他に目的を持たない行為だ。「〇〇のため」ではなく、ただそのことが面白い、ということである。そして、それが面白いかどうかは、その子にしか決められない。決めるといふより、感じるしかない。

目的を持たないゆえに、居場所は戯れ<sup>e</sup>の場・遊びの場となる。遊びは社会のなかに目的を持たない。遊び自体が遊びの目的

だ。居場所が遊びの場になるのは、居場所の本質に無為があり、無為が無目的の遊びを可能にするゆえだろう。遊びは、社会状況へと介入する行為・実践と対立する。遊びはあくまで遊びの瞬間のなかでの動きであり、遊びの空間の外にある生活や社会の状況を変化させるわけではない。ごっこ遊びがその典型であろう。仮面ライダーごっこは現実世界の悪を倒して世界平和を打ち立てるわけではない。

居場所での遊びは創造的な自発性に恵まれるが、それ自体は社会情勢を変化させることも家族関係を変化させることもない(そして自発性が重要であるがゆえに、西川正が示したとおり制度化されたトタン<sup>f</sup>にケイガイ化する)。べてるの家の当事者研究は遊びのバリエーションの一つであるとも言えるが(ウィニコットの学問も含めて創造的な文化的営みはすべて遊びの派生形である)、社会で役立つアイデアは手に入るかもしれないが、当事者研究そのものが生活の変化であるわけではない。当事者研究で得られる生活上のアイデア・手がかりは、C 当事者研究という、生活の場からは切り離された中間領域でメンバーと共同で創造性が発揮された結果生まれるものだ。社会へと介入する行為とは別の活動である遊びは、居場所という、社会からの退却を前提とする。

無為と遊びという特徴を挙げたうえで、話題にしたいのはこの居場所がもつリズムについてである。居場所は独特の時間と空間をもっている。東畑は状況が変化しない居場所の時間を「円環的な時間」と呼んだ。そして円環的であるということは居場所の無為が(永遠の現在であるということだ(エリアーデが描いたアポリジニの夢の時間のような神話の時間につながる))。

また、言語学者ギユスターヴ・ギヨームは動詞を論じながら二つの時間を区別した。ひとつは「内に折り込まれる時間」だ。「食べる」と「食べ切る」のニュアンスの違いのような、進行形や完了形といった質の違い、リズムの違いであり、現在「現前のなかでの時間の緊張にかかわる。もうひとつは「外に練り広げられる時間」であり、こちらは過去、現在、未来で分節されて現実の世界のなかで年表やスケジュールとして練り広げられる。居場所の時間もこの二つの側面から考えることができる。つまり居場所でのそのつど内包的に経験される無為のリズムの意味と、居場所が練り広げる連続性の意味だ。

まず前者の「現在」現前の内に折り込まれる時間から考えてみると居場所がもつ円環的な時間のもつ固有のリズムが見えてくる。

さまざまな活動に忙殺<sup>h</sup>される日常生活のなかで、居場所は喧騒<sup>i</sup>から逃れる特異点となる。あわただしい毎日を送っている人にとっては、緊張感から解放される場所である。あるいは学校や家でいじめや不和によって居心地が悪く、D 「居場所がない」と感じられている人にとっても、緊張感から解放される場所である。つまり多くの場合、緊張に対する弛緩<sup>j</sup>が居場所の特徴となる。日常の生活がもつリズムが解除されてゆるむのが居場所である。今現在においてあわただしいのかゆるんでいるのか、というリズム＝強度の違いである。このゆるみは、居続けて良いし何もしなくて良いことと並んで居場所の大きな特徴となる。社会生活という動的でありかつ緊張感のある経験は、静的でゆるんだ時間を必要とする。円環的時間とは、現在の現在の現在へと展開していかないということだ。現在「現前しか存在しない時間である」といっても良い。外に練り広げられる時間という視点から見ると居場所の時間は円環的であり、内に折り込まれる時間という視点から見た時間は(リズムのゆるみ)である。

(村上靖彦「交わらないリズム」による)

【注】 ○浦河べてるの家——北海道浦河町にある、精神障害等をかかえた当事者の地域活動を支える社会福祉法人。

○こどもの里——大阪市西成区にある、子どもや保護者の支援を行っているNPO法人。

○当事者研究——当事者が主体となって、自分自身で自分を理解するための研究を行い、またその研究を発表すること。

○オープンダイアログ——患者と医療者、家族などの関係者で対話を行うという精神疾患の治療法。

○東畑開人(とうはた かいと、1983-)——日本の臨床心理学者。

○西川正(にしかわ ただし、1967-)——日本のコミュニティワーカー。

○ウィニコット(Donald Woods Winnicott, 1896-1971)——イギリスの精神科医、精神分析家。

○エリアーデ(Mircea Eliade, 1907-1986)——ルーマニアの宗教学者。

○ギユスターヴ・ギヨーム(Gustave Guillaume, 1883-1960)——フランスの言語学者。

問一 傍線部 a～j のカタカナは漢字に、漢字は読みをカタカナに、それぞれ改めよ。

問二 空欄 A～D に入れるのに最適な語を、次のア～オから選び、記号で答えよ。ただし、それぞれの記号は一度のみ用いることができる。

ア まさに      イ とりわけ      ウ かりに      エ あくまで      オ むしろ

問三 傍線部①について、「背景」となる「二つの文脈」とはどのようなものか。本文に即して、それぞれ五〇字以内でまとめよ（句読点・かっこ類も字数に含める）。

問四 傍線部②「こんな風景」について、次の間に答えよ。

(1)「こんな風景」の特徴を、筆者が最も端的に示した二字の語を、本文から抜き出し、答えよ。

(2)「こんな風景」と「遊び」は、どのようにつながっていると考えられるか。本文に即して、一〇〇字以内で説明せよ（句読点・かっこ類も字数に含める）。

問五 傍線部③「居場所の時間」もこの二つの側面から考えることができる」とあるが、「居場所の時間」にはどのような特徴があると考えられるか、本文に即して、一〇〇字以内でまとめよ（句読点・かっこ類も字数に含める）。

問六 「居場所」について説明された内容として、最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選べ。

ア 「居場所」とは、人が自由に出入りでき、目的を持たずに存在することができる場所なので、何もしないことも何かをすることも、どちらも可能である。

イ 「何もしない」ということは、誰にとっても大切なことであり、日常の中にあるその時間を見出していくことが「居場所」の心地よさをつくり創造性を育むことになる。

ウ 筆者はかつて精神科デイケアで調査を行った経験があるが、「居場所」にいる人々が「何もしない」状況を分析する方法がないので、調査を中止した。

エ 「居場所」におけるごっこ遊びは、社会状況を模倣するものなので、社会を変化させるのではなく、社会状況をそのままに再現し再生産することになる。